

社団法人私立大学情報教育協会  
平成 21 年度第 2 回 CCC 芸術系グループ運営委員会議事概要

- I. 日時： 平成 21 年 6 月 25 日(木) 11:00～13:20  
II. 場所： 私情協事務局会議室  
III. 出席者： 西垣委員，有馬委員，井澤委員（座長），久原委員（記録），  
小川委員（遠隔），宮田委員（遠隔）  
井端事務局長，事務局山野上

IV. 検討事項：

1. 学士力の詳細検討について

(1) 芸術系学士力の枠組み再検討

芸術系学士力の詳細について、検討を行う前に、芸術分野の枠組み等について検討を行ったところ、次のような意見があった。

- ・ 芸術と美術の違いを考慮する必要があるのではないか。
- ・ 美術，デザインに論点を絞ったほうが現実的ではないか。  
これらの意見を踏まえ、次のような結論となった。
- ・ 委員の構成を考慮し，音楽，演劇は除くことにする。
- ・ グループのカテゴリを芸術（美術・デザイン）系グループにとする。
- ・ これにともない，学士力の 1，2，3 の項目の「芸術」を「美術・デザイン」とする。

(2) 各学士力項目の詳細について

それぞれの学士力項目について詳細化を検討した。内容は以下の通りであった。

① 学士力の 1 の確認

1. 社会、歴史、科学などの観点から美術・デザインを理解できる。

詳細項目として以下の点を上げたが、「芸術」を「美術・デザイン」として修正する。

- 美術・デザインが社会にもたらす役割を理解できる。
- 美術・デザイン、工芸等の歴史を概観できる。
- 素材・メディア等の技術を活用できる

その他は，ほぼ原案通りとなった。

② 学士力の 2 の確認

2. 美的感覚、感受性に富み、独創的な表現により他者に感動を与えることができる。

- ・ 原案は「感受性に富み、創作を通じて独創的な表現ができる。」であったが、感受性だけでは不十分なので、美的感覚を加える。(参考用語：Aesthetic sensibility)
- ・ 「創作を通じて」は冗長なので省く。その代わりに、「他者に感動を与えることができる」を追加する。
- ・ 感受性とは生来、個々人が持っているものであるが、教育によって感受性をより富ませることが可能である。
- ・ 単に感受性を持つだけでなく、美的感覚を持つ必要がある。
- ・ 単に感じるだけではなく、知的レベルと五感で得られた感覚を統合して、感受性を発揮する必要がある。
- ・ 悟性という語を用いることも検討したが、一般的ではないので避けたほうが良い。
- ・ 美的感覚は、様々な作品を鑑賞することによって培うことができる。
- ・ 美的感覚を持っていれば、制作物が単なる機能性に優れているにとどまらず、美しさを実現できる。
- ・ 美術・デザイン系の学士として、他分野にはない能力として、美的感覚を表現に生かせることは大切である。
- ・ 一般の人にとって感じ取ることが難しい美しさを感じ取ることができる。
- ・ その美しさを一般の人が感じ取る事ができるような表現を創りだすことができる。
- ・ 「感受性に富む」と「独創的な表現」を分けたほうがよいか？ 感受性を持って、感動し、感動したことを表現して他者に伝えることが重要であり、両者には密接な関係があるので、1まとめに考える。
- ・ 議論の繰り返しを避けるため、学士力の大項目の変更は、必要最小限にとどめる。

### ③ 学士力の3の確認

3. 美術・デザイン系分野における専門の理論と技術を統合し、社会の中で活用できる。

専門の理論と技術を具体的に列挙する。

技術として

平面・立体・時間軸構成力、デッサン力、プログラミング力

理論として

美学・美術史、芸術学（色彩学、デザイン学）、心理学、認知科学、工芸論、造形論

関連領域として  
解剖学、物理、生物、数学  
等があることが確認された。

## 2. 今後の進め方

宿題として、学士力2、3に関する詳細項目（因数分解）を考えてくることとなり、できれば、コアカリキュラムのイメージも併せて考えてくることとなった。

次回 7/23(木)11:00 から開催することとなった。